

# 新たなホール完成までの方策について

## ① 代替ホールの整備について

### ◇前回までの代替ホール整備案への意見◇

- ・代替ホールを整備するよりも、新たなホールの整備に経費をかけるべきである。
- ・代替ホールを整備してしまうと、それが恒久的なホールになってしまう。
- ・鉄骨造では、遮音性、音響等に問題がある。

#### 【追加意見】

- ◆新たなホール完成後の代替ホール活用の有無、または活用方法の明確化が必要。  
例えば、文化ホールとしてではなく、阿波おどりの練習場など多目的なコミュニティホールとして利用することができれば、無駄な投資にならない。（ただし、運営費が必要）
- ◆新たなホールの整備計画が未定の中で、代替ホールの整備について検討できないのではないか。  
札幌市のように後継施設の開館が具体化し、整備期間中の対応として一時的にリースしたのとは状況が違う。
- ◆代替ホールの整備に2年から3年の期間が必要であれば、やはり無駄であり、文化団体への支援策を含め、他のホールとの協力により、別の対応を検討する方が良い。

## ◆リース方式による整備の検討◆

- 場 所 新たなホールの建設地以外への整備  
\* 札幌市では、新ホール建設計画決定後、完成までの約8年間の空白期間への対応として、旧ホール解体後、その跡地に整備
- 整備期間 約2年半～3年（想定）
- リース費用 札幌市民ホール：約20億円  
（徳島市の場合、建設場所の土地の形状、現在の工事費、工法等により増額が見込まれる）  
\* 札幌市では、計画中の後継施設の完成までの代替施設として整備したため、舞台備品の再利用等により、初期費用を必要最低限に抑制した。  
\* 約6年半のリース期間終了後、市に譲渡されたが、市内の他のホール閉館に伴い、約8億円かけて改修し、継続運営を行っている。
- 課題等
  - ・新たなホール開館後（リース期間終了後）の代替ホールの対応（活用の有無、活用の場合の用途等）を検討しておく必要がある。
  - ・新たなホールと代替ホールの整備費用、ランニングコスト等を踏まえた中長期的な計画が必要である。

## ② その他の方策案について

### ◇既存の公共・民間ホールについて（前回までの有識者会議の意見）◇

- ・利用者のニーズ把握による支援策の検討が必要である。
- ・利用の少ない施設の現状確認と改修・改善の可能性の調査・検討する。
- ・文化センターの舞台備品等の有効利用する。
- ・他の公共・民間ホールへの協力・連携を依頼する。